



丸一金属工業株式会社

気まぐれ通信 2 年目

ver.1.00

(余談続編)

著作 吉村 郁祐

丸一金属工業株式会社会議資料より「気まぐれ通信」タイトル一覧 平成 22 年 9 月～平成 23 年 8 月の 12 ヶ月分

其の 2 9 平成 22 年 9 月 7 日 ● 前門の虎、後門の狼、、、そして飛び入りの獅子も出た！？

其の 3 0 平成 22 年 9 月 14 日 ● 鮭よもやま話

其の 3 1 平成 22 年 9 月 28 日 ● 「いのち」とは？ ～私見～

おまけ 平成 22 年 9 月 28 日 ● 中国の属国に成り下がるのか

其の 3 2 平成 22 年 10 月 5 日 ● 「顔付き」と「面(ツラ)構え」 ～私見～

其の 3 3 平成 22 年 10 月 12 日 ● 三峡ダム決壊の現実味

其の 3 4 平成 22 年 10 月 19 日 ● 悪徳弁護士達の次なるターゲット

其の 3 5 平成 22 年 10 月 26 日 ● 百の姓^{かばね}

おまけ 平成 22 年 10 月 26 日 ● つるりんっ！とむける茹で卵^{ゆで}

其の 3 6 平成 22 年 11 月 16 日 ● 守るシクミ ～旧平野郷にもシクミが有った！？～

其の 3 7 平成 22 年 11 月 22 日 ● 日本を小突く中露と米国のイラダチ

其の 3 8 平成 22 年 11 月 30 日 ● もう一つの「トラ・トラ・トラ」

其の 3 9 平成 22 年 12 月 14 日 ● レアメタル・レアアースよもやま話

其の 4 0 平成 22 年 12 月 21 日 ● 年賀状よもやま話

おまけ 平成 22 年 12 月 21 日 ● 表現の自由！？責任の所在は？～

其の 4 1 平成 23 年 1 月 6 日 ● 現代によみがえるピータードラッカーの提言

其の 4 2 平成 23 年 1 月 11 日 ● トンかブタか？ ～日本を二分する冬の料理！？～

其の 4 3 平成 23 年 1 月 23 日 ● 私達に襲いかかる「ソーシャルエンジニアリング」とは？

其の 4 4 平成 23 年 2 月 1 日 ● たき火とツボ

其の 4 5 平成 23 年 2 月 8 日 ● オオウラさんと丸一金属

其の 4 6 (飛び番)

其の 4 7 平成 23 年 2 月 22 日 ● 和菓子の例外！？

其の 4 8 平成 23 年 3 月 1 日 ● 膨れる闇金融市場

其の 4 9 平成 23 年 3 月 16 日 ● メガクエイク平成 23 年 6 月 21 日

其の 5 0 平成 23 年 3 月 22 日 ● 福島原発事故の現状は人災

自分達が出来ること 平成 23 年 3 月 29 日 ● ～震災に対して出来ること～

サルにも分らん？政府情報の推移 平成 23 年 3 月 29 日 ●原発事故に関し、知り合いのメールを少しアレンジしました

おまけ 平成 23 年 4 月 12 日 ●風評（思惑）と情報

其の 5 2 平成 23 年 4 月 19 日 ●忘れてはならない先人の警告

其の 5 3 平成 23 年 5 月 31 日 ●日本の評価・世界の評価

其の 5 4 平成 23 年 6 月 7 日 ●慣れとはオソロシイ

其の 5 5 平成 23 年 6 月 14 日 ●何も応（答）えられない政治家達、、

おまけ 平成 23 年 6 月 14 日 ●日本人のマスクと対極にあるのんびりさ

其の 5 6 平成 23 年 6 月 21 日 ●中国のアキレス腱か？

おまけ 平成 23 年 6 月 21 日 ●世界の電力消費量は 2030 年までに現在の 3 倍に！？

其の 5 7 平成 23 年 6 月 28 日 ●ドリンク剤よもやま話

おまけ 平成 23 年 6 月 28 日 ●濃ゆい 1 ヶ月

其の 5 8 平成 23 年 7 月 26 日 ●ライスカレーかカレーライスか？

おまけ 平成 23 年 7 月 26 日 魁皇関の引退

熱中症の予防について 2011 年 7 月 23 日 全体教育訓練講義資料

其の 5 9 平成 23 年 8 月 2 日 ●あじあ号と中国新幹線

おまけ 平成 23 年 8 月 2 日 ●共産資本主義と民主共産主義

其の 6 0 平成 23 年 8 月 9 日 ●東北の夏祭り

おまけ 平成 23 年 8 月 9 日 ●アメリカの軍事情報は日本海を越えてゆく

其の 6 1 平成 23 年 8 月 23 日 ●大阪のチンチン電車～南海電車を中心に ～

其の 29

● 前門の虎、後門の狼、、そして飛び入りの獅子も出た！？

今年の猛暑・酷暑はさまざまな弊害を及ぼしたのは周知の通り。冷房もガンガンに点け続け、ひたすら熱中症にならぬよう努めた方が大部分だと思います。高温傾向は数年前から見られ、観測史上最高などと言うニュースが毎年のように語られます。そして今年は「高温元年」などと言う人もおられるようです。高齢の方々は温度変化を感じる能力が低下している上に、体温調節機能が衰えており熱に侵されている自覚が余りないようで知らず知らずの内に熱中症になっている、、冷房が無い、使わないのでそれらが余計に被害を大きくしているとの報道もなされます。片や、夏場に生まれた赤ん坊は、生まれてすぐに冷房の効いた環境で育っているため汗腺の数が少なく汗を十分にだせない。結果、体温調整が出来ずに暑さへの抵抗力が少ないとされます。また、一般に犬猫などの動物は汗腺が無く舌から水分を蒸発させて発汗による体温調節の代わりをしています。と言う訳で熱代謝能力の小さい動物達もこの暑さの犠牲になっている事でしょう。

人間や動物以外にこの暑さでダメージを受けているモノがあります。それは冷やす道具、、冷房や冷蔵庫など暑い時にこそ重宝するもので今年の夏は特に大活躍したは間違いありません。しかし、それら機械ものも連続使用に悲鳴を上げており、今年はなんとか動いてくれても来年の夏「いざ鎌倉！」と言うときに前年の酷使で役立たない可能性が考えられますね。

さて、ここ数年来懸念されている事のひとつに新型インフルエンザがあります。ジワジワと人への感染力を増しつつ不気味な動きを見せています。また、ここに来てにわかに注目されだしたのが「多剤耐性菌」と言われる細菌です。抗生物質がほとんど効かないやっかいなヤツです。

これらは自然の変節によりもたらされた可能性が高く、私達は一年中さまざまな脅威にさらされる可能性が高くなったと考えるべきでしょうね。これらに晒される私達が対抗する手段には免疫力・抵抗力・体力の向

上、そして体に不利益な事を避ける、などが有ると思います。また、手の消毒や、うがいも年中行事になりそうです。

平成22年9月7日

其の30

● 鮭よもやま話

例年9月も中旬に差し掛かると鮭の遡上が話題になり始めます。生まれ故郷に戻るのは繁殖のためですね。この時期、特に北米の鮭は身体が赤くなり繁殖の準備が整った事を雌雄お互いにサインを出しているのです。この頃の鮭は紅鮭と呼ばれ、脂も乗って美味しいとされます。それらを知ってか知らずか冬眠に備える熊たちの格好の餌食となりダイナミックに自然の食物連鎖を見せてくれるのです。

しかし川で生まれた鮭が同じ川に戻ってくるのは不思議なものです。一説には川の匂いを覚えているからと言われていますが定かではありません。色んな動物がこのような習性を持っていますね。

ところで魚の身は大まかに「白身」「赤身」に分けられます。鮭はどっちなんだろうかね？身近なマグロは赤身で回遊魚。長距離を泳ぐのに適した筋肉だそうです。片や白身の魚は近距離移動の筋肉で回遊魚と比較して狭い範囲で活動したり、余りうろうろしない魚に多いとされます。

さてさて鮭はオレンジ色、、、昔、私は身の色が紅色にも見える事から紅鮭と思い込んでいた事が有りましたが、紅鮭の由来は先に書いた通りです。川で育っている間、鮭の子供は身が白く海に出て大きくなるにつれ身に色が付いてきます。この色は餌として食べるエビの色素が身に沈着しオレンジ色になるのだとか。赤身の魚を焼くと身が白っぽくなりますが鮭の色は変わりませんよね。と言う訳で本来は白身の魚だそうです。

余談ですが、おかずにも困った時のお助けに便利な鮭。この名の由来は簡単に身が「裂ける」からと言う説があります。実際、箸で割ると簡単に身が割れてほぐれやすいですね～

他に、アイヌ語で夏の食べ物を意味する「サケーイ」や川を遡上するさまを「川の瀬を蹴って昇る」ようだと言った事から「瀬蹴（せけ）」と言ったと言う説もあるようです。ちなみに「サーモン」はラテン語で跳躍を意味する「サロモ（SALOMO）」と言う説が有ります。先ほどの「瀬蹴」に通じますね。

平成22年9月14日

其の31

● 「いのち」とは？

～私見～

さまざまな場面で問われる命の尊さ。地球が誕生して45億年掛けて到達した現代においても命の謎はまったく解明されていないと言えるでしょう。人類は命の不思議に対し畏怖心や敬意を抱き、心の安らぎなどさまざまな想像を膨らませ、また巡らせてきました。

さて、生き物は最初の化学的な反応を基に発生し、進化を遂げてきました。連綿と続く不思議な適応進化で多様な生き物がこの地球上に存在してきました。それぞれに命が有り、さまざまな種同士が関わりながらそれぞれの営みをしています。

地球が誕生した当初はドロドロに解けた火球で生物が存在する筈も無く、当然命の存在も考えられませんね。私は時々星を眺める事があります。空気の澄み切った夜空を地面に仰向けになって眺める事が何度か有りました。最初は美しい天空と感じるだけでしたが20年ほど前、同じように寝転んで見ていると星空に吸い込まれそうに感じた事が有りました。意識も一緒に吸い込まれそうになった時「ああ、自分は死んだらあの宇宙に還るのだ」と直感的に感じたものです。命はその生き物にひとつではなく、宇宙から与えられた目に見えぬ時空を超えたエネルギーの集合体では無いか？死ぬ事とは、その生き物の体はそのエネルギーを保てなくなった状態を指すのではないか？そのエネルギーが身体に宿るからこそ生命の進化を助け、活力を与えてくれるのではないか？などと考えてしまいます。これらは漠然としていて何の根拠もありません。ただただ20年前、私が星を見て想像した事なのです。

さて幸運にも私たちを含め、さまざまな生き物が預かっている命。それが宇宙のエネルギーで有ろうが無かろうが私たちにとってはかけがえも無いものであるのは変り有りませんね。と言いつつ蚊をパッチンする身勝手さも有りますけどね。(´`);

余談ですが、さまざま宇宙からの贈り物はまだまだ解明されておらず、人類が解明できている物質やエネルギーなどは全体の2割程度と言われます。要するにまだまだ不思議な事だらけって言うことです。

平成22年9月28日

おまけ

●中国の属国に成り下がるのか

1970年代、ジャーナリストの本多勝一なる人物が日中に関する本を出版した。当時ずいぶん話題になったが、それは正に中国も気付いていなかった日本オドシのネタが散りばめられてあった。姉が何冊か買っていたのでそれらを読んだ事がある。本多氏の著書に対する評価は賛否両極端であり、中には少しマトモなものも有るが全般にかなり偏った内容のものが多いと私は思う。

日本は1972年の日中国交回復の際、戦争に対する謝罪と補償は済ましている筈なのに、その後何度も謝罪を繰り返してきた。挙句の果て日本は「戦争の謝罪」を外交のカードにされてしまったのである。

1985年、時の中曽根首相が靖国神社に参拝し中国を始め近隣諸国から非難を受けた事があった。で、翌年には参拝を中止。これが「平身低頭外交」の原点とされる。「日本はチョット脅したら言うことを聞く」とインプットされてしまったのだ。以降、日本はどこまで弱腰なのかを試され続けている。

昔っから言い続けていますがマトモな良識が駆逐され、民衆がコントロールされた中国は信用足り得ない。カス政治家達の与野党同士の批判、与党内は内輪もめ。と言う訳で平和ボケ日本国政はスキだらけ。呆れるばかりナリ。

平成22年9月28日

其の32

●「顔付き」と「面(ツラ)構え」～私見～

私は人を見るとき、先ず鼻を見る。経験的に鼻はその人の基本的な性格が出ていると思うからです。別に体系的にまとめている訳ではないのですが自分なりに判断するのです。かなり昔に見たのですが、性格的に分類をした人のグループを写真で重ね合わせると共通する部分が強調され、性格傾向が顔の形状に反映されるというものが有りました。恐らく経験上、多くの方もそれなりに判断基準を持っておられると思います。ま、予断を持って人と接するのは余り良い事ではありませんが、ある程度必要だと感じます。

さて、顔付きとは別に「ツラ構え」も人を見るとき判断基準とされている方も多いでしょう。

人前に入る職業の方々、経験を積み良き知名度が上がるにつれ顔つきが変ってくるのを感じますね。人が人を作っているのでしょう。そんな人は目も輝いて「面構え」も良い人が多いです。逆もまた然りです。

そう、一般に重視されるのが「目」と思います。以前「目は口ほどに物を言い」と言うタイトルの中で人間の目が持つコミュニケーション力の重要性を書いた事があります。目は、ぱっと見た印象。じっと見たときの面表情。そして、目の奥から出てくる深層心理などさまざまな要素が現れますね。生き生きした目の人と話をすると、実に気持ちが良いです。逆に目をそらして話をする人はダメですね。何か隠しているか、後ろめたいものが有るのかな？と感じます。

そのような人達は「面構え」も悪く感じられる事が多いです。と言う意味でも「面構え」を左右するのは目なのでしょうね。

ところで、今の政権与党は大きく2つのグループに大別されますが、その一つのグループの方々の目つき、表情は実にヤクザっぽく感じられる方が多いです。腹に悪だくみを抱えている、、、そんな目付きです。あくまでも私見ですがね。

其の 33

● 三峡ダム決壊の現実味

中国は水源確保と発電量増加のため揚子江上流、湖北省長江流域に昨年(2009年)完成したのが世界最大級の三峡ダムで、発電量は中国の消費電力の1割をまかなうと言われます。中国では同じ目的で東南アジアに注ぐ川の上流でも同様に多数ダムを作り、下流の隣国の生態系や農業の灌漑に大きな影響を与えています。当然の事ながら上流での水量のコントロールにより下流の流量が変わりますが、放流における下流への警告などはほとんど無いも同然なので、時として下流に大きな被害が発生し、更には村や町が丸ごと流されてしまう事もあるのだとか。それらの被害を中国に抗議しても知らん顔、、、「わが国は関係無い。ダムと下流の自然の変化や“自然災害”との因果関係はありえない」と突っぱねるのです。かの国は昔っから、あっちゃこっちゃで隣国とトラブルを起しています。

さて、最近の海外ニュースで中国の洪水が増えてきたとは思いませんか？日本でもそうですが、今までの気候であれば充分だった河川や洪水対策の能力を超え、雨量が増えてきたのです。中国でも気候変動で同様の事が起こっていると思われれます。

この山峡ダムは1919年に構想が発表され、紆余曲折を経て1993年半ば強行に着工、2009年竣工と、この規模のダムとしては異例の突貫工事で作られました。近辺(と言っても広大!!)の住民110万人余りが強制移住させられ今も増え続けています。周辺の数多ある遺跡も水没。そして周辺のみならず下流域の自然環境にも多大な影響が出ています。上流における工業排水でダム湖が巨大なドブ池と化す懸念。また、地盤がせき止めている水圧に充分耐えうるのか？周辺で起こっている地盤異常。また、地盤への影響で地震を誘発しないのか？など、さまざまな懸念を抱えているとされます。治水の面で言うと、過去の雨量のデータを取り、それらに見合った強度設計がなされているのですが、近年の異常気象で過去の雨量データを遥かに上回り、想定以上の土砂が堆積。そして周辺で膨大な雨量でダム貯水能力を超えたり、地震などでダム決壊の懸念が浮上して来たのです。そして突貫工事のツケも懸念されるのです。

もし何らかの理由で決壊すれば、堆積土砂と共に流出する膨大なダム湖の濁流は国家の存亡につながる未曾有の大惨事を引き起こすでしょう。怒涛のように黄海になだれ込む土石流は、日本海を中心とした日本にもハンパでない被害を与えるとされます。中国はこのダムの状況を公表し、貯水量を調整しつつ危険を回避する義務が有ります。

この事はハンガリーでのアルミ精錬所有毒廃液ダム決壊のニュースで思い出しました。テレビ映像とは言え、真っ赤な廃液が広がっている光景は目に焼きついてしまいますね。恐ろしい事です。

平成 22 年 10 月 12 日

其の 34

● 悪徳弁護士達の次なるターゲット

近年の司法改革でやたらと増えてきたのが弁護士です。例えばアメリカ合衆国と比較すると日本では人口当たりの弁護士数は少ないのですが、数が多くても食いつぶしが少ないのは弁護士の活躍の場が日本とは違う事にあるようです。もとよりポールニューマン主演の「評決」と言う30年近く前の映画では、仕事(案件)にあぶれた弁護士を描いており、当時アメリカでの優秀な弁護士とは「如何に金をふんだくるか？」と言うのを皮肉った内容であったと記憶しています。

さて、一昔前は、弁護士資格を取ってもまだまだ一人前でないので弁護士事務所に身を寄せ、修行すると言った居候弁護士、通称「イソ弁」が当たり前の時代がありました。今やその数が増えすぎ、他の弁護士事務所の軒先を借りて仕事をする「軒弁」、自宅を事務所にする「宅弁」なる呼び名も有り、究極は事務所を持たず携帯電話のみの「ケー弁」まで出現。仕事が無いのを見透かした「反社会勢力」の甘言に乗せられ、正

義の味方である筈が悪に染まってゆくと言う現実を見ると司法改革は皮肉な結果となっているようです。明らかに失政でしょう。

さて、最近までやたら多かったサラ金の「過払い利息を取り戻す」と言う弁護士のCMも大手の武富士倒産で峠を越えました。この「過払い」に関しては悪徳弁護士もおり、サラ金地獄の被害者に2次被害を与えた事でも問題視されています。さまざまな手練手管で法の知識の無い人々を陥れる事も有るようです。さて「武富士」と言う大口が無くなれば、今まで吸えていた甘い汁が無くなる訳で、またまた熾烈な弁護士間競争が始まるのです。そして次の狙いの一つが「未払い残業代」とされています。不況が続く、企業も残業代を抑えるべくさまざまな工夫をしています。しかし、その中には法に逸脱したものも有るようで、これらをターゲットにしようとする目論みでいるフシがあるのです。ここ数年で大手ファーストフードなどが槍玉にあげられて来ましたが、今後、これらに対し更なる企業防衛が必要となります。もちろん労働者の意識向上も重要なのです。

平成 22 年 10 月 19 日

其の 35

● 百の姓かばね

米の収穫もそろそろ終盤に差し掛かり、米作農家もひと段落と言ったところも多くなってきましたでしょう。残念ながら今年は記録づくめの猛暑で、米の作柄はいま一つとされています。

米作は種籾から苗床作り、そして田植え、水の管理、害虫・雑草対策、収穫、脱穀とさまざまな手が必要なことから「米」と言う文字を分解して「八十八の手が掛かる」と例えられますね。

さて農業に携わっておられる方々を「百姓」とも言いますが「百姓」とは元々一般の人々の事を指したようです。要するに「さまざまな・たくさん」と言う意味の「百」と、名を指す「姓」と言う事で「さまざまな人々」＝「民衆」を指す言葉が本来の「百姓」だったと云われます。と言う訳で「百姓」は元来、農業とは直接関わりの無い言葉だったようです。それが、奈良時代以降に農場として「荘園」が発達し、そこで働く民衆は主に農業に従事していることから総称として「百姓」となったとされます。

そしてもう一つの側面としては米作と同様、農家はさまざまな役割をしなければならないと言う事があります。時期に応じ、さまざまな役割をこなさなくてはならず、時には器具などのさまざまな修理、手入れ。もちろん作物への気配りや手をかける事などなど「百の役割」転じて「百人分」。だから「百の姓かばね」なのだ、と言っておられたのを聞いた事があります。

農産物で忘れてはならないのは基本的には「自然の恵み」である事と「自然と格闘している現場の人々」だと思います。日本から土の農業の灯火を消してはなりません。

平成 22 年 10 月 26 日

おまけ

● つるりんっ！とむける茹で卵

過日、テレビで興味深い内容がありました。生卵のお尻（丸い方）の殻に少しヒビを入れて茹でると、あ〜ら不思議。コブが出来たり割れたりしません。また、むく時も白身が殻にひつつかずキレイな茹で卵がつるりんとしてむけます。その上美味しい！卵は新鮮な程白身などにガスが溜まっており、そのガスが茹でる時に色んな悪さをするそうです。ヒビを入れる事により、ガス抜きとなってキレイで美味しい茹で卵の一丁上がり、となるのです。私もやりましたが気持ちよい程ツルリンとむけて美味しい茹で卵でした。

また、目玉焼きを焼く時に低い位置からそろーりと卵を落とすか別の容器に優しく卵を割り、丁寧にフライパンに移して焼くと黄身が美味しい目玉焼きが出来ます。この様に扱う事で黄身の細胞が崩れる事が無く、黄身の本来の弾力を損ねないからだそうです。これらを一度試して見るのも一興ですヨ。

平成 22 年 10 月 26 日

きまぐれ通信 其の36

守るシクミ ～旧平野郷にもシクミが有った！？～

年末も近づき、強盗や窃盗、放火などの犯罪が増える時期となりました。普段以上に緊張し備えねばならない時期でしょう。

狙われるのは当然の事ながらガードの甘い人や家屋、施設。犯罪を招く一つの要因は、被害を受ける側の体制もあると言われます。要するにやりやすく手っ取り早い方から標的になるって言うことですね。歩き方、物の持ち方、置き方など少しの注意で自らを守る事が出来ます。

放火にしても、燃えるものを目に付く所に放置した結果、標的になることもあるようです。

さて、銀行などの金融機関の扉は内側に開いたり、自動ドアであればゆっくりと開閉します。内側に開くのは強盗して逃げようとしても一旦足を止めなければならないようになっているのです。ゆっくり開閉する自動ドアだってそうです。犯人の逃げ足を抑え少しでも検挙につながる可能性を高めている訳ですね。また、犯人の身長を見極める定規のようなものも出入りに設置されているのも見かけます。そしてカラーボールを投げつけて逃げる犯人に染料を付けると言った事もやりますね。このボール投げの練習は？と言うと水だけ入ったボールを使うそうですが、中々当たらないものだと言った事があります。

これらは犯罪が起こってからの対処なのですが、一番大事なのは狙われないようにする事でしょう。私たちは日常で「如何にスキを見せないか」が重要となります。

ところで、平野区の昔の中心地域であった旧平野郷は元々環濠と言う堀に囲まれた1キロ四方の自治地区で堺の自治地区と比肩される程の勢いがあったとされます。今や環濠の名残は杭全神社の公園の北にある小さな堀しか残っていません。当時環濠の切れ目が平野郷の出入り口で、その名残としてひととき大きなほころ祠が有り、お地蔵さんがまつ祀られています。その前の道は少しくランク状に折れているので大きな祠と道の形状で、かつて平野郷の出入り口だった事をうかがい知る事ができます。またそれらのお地蔵さんには「○○くち口地蔵」と書かれています。環濠内の道は碁盤の目状になっているのですが、出入り口付近の道をそのようにすれば外側から中の様子がストレートに見えず、環濠内の状況が判りにくくなります。当時、商人が多く豊かだった平野郷は、常に外部から狙われており、外敵から守るシクミが必要だった事を垣間見る事ができます。

平成22年11月16日

きまぐれ通信 其の37

●日本を小突く中露と米国のイラダチ

かつて共産主義だったソ連。戦前から東西冷戦の大国の狭間にあつて日本は米国が防衛面で手中に収めたかった国なのです。ご存知の通り、日本軍に真珠湾攻撃で太平洋戦争が開戦、戦局の拡大と暗転、そして原爆を投下されて日本の敗戦を早められ、第二次世界大戦の幕が降りたのは周知の通りです。

さて、この戦争は米国が日本を開戦へと導いたとされる説が有るのをご存知だろうか？米国の豊かさは日本と比べるべくも無く段違いでしたね。日本が切羽詰って本土決戦・玉砕などと言っていた時、米国本土では悠々と豊かさを享受できる余裕がありましたね。

東西の冷戦下にあつて日本を米国防衛の最前線にするのは悲願であり、日本をモノにする為に米国が専制攻撃を掛けると米国が悪者になってしまいます。そこで、戦争を始めると日本は必ず負けるとの確実な予測に基づき、日本から開戦させるよう導いたとされる内容です。アメリカ在住の知人から教えてもらいましたが、有りうる話だと感じました。

おまけに「日本の国民をこれ以上苦しめないよう戦争の終結を早めるべく」原爆を投下したのは、この大儀名分の下「原爆の人体実験」をしたとされるのです。日本の軍政が国民に命じた最後の抵抗は原爆実験をする絶好のオマケを付けてくれました。実際、当時の原爆が人体に及ぼす医学的記録の多くが米国に保管されています。

さて、対共産圏最前線基地としての沖縄が安定した頃を見計らって日本に返還されました。そして米国の庇護の下、時が過ぎて行ったのです。この間、ソ連は崩壊しロシアになったものの依然として共産主義的管理をし、片や中国は共産主義のまま経済的・軍事的に台頭しました。北朝鮮の問題も有ります。「東西冷戦」と言う言葉はほとんど言われなくなりましたが、中露と米国の間には目に見えぬ火花が散っている状態ですね。

終戦後、米国は日本を飼いならすべく民主主義を啓蒙しました。しかし腑抜けになりすぎた日本の中枢の優柔不断さが日米の不協和音を招き、それを見逃さなかった中露が領土問題で揺さぶりを掛けて来たのです。米国は日本を意のまま居にあやつるために骨抜きにしようとは目論んでいましたが、政治や国民の予想以上の幼稚化は米国にとって痛い誤算だったと思います。

米国はかなりの長期プランを立てて戦略的に我慢強く物事を推し進めるのですが、80年にわたる壮大な計画の中で獲得・維持してきた沖縄の基地に関する日本の迷走はかなりの危機感を感じているのです。と言うのも、対中露最前線は歴史的にも地理的な事からも沖縄以外考えられないからです。だからと言って私は沖縄に基地が有るのを肯定している訳ではありません。現状では選択肢を無くしてしまったのです。

いっそお金持ちの鳩山元首相に沖縄近海的环境に支障が少ない所を埋め立てて新しい基地用の島を作ってもらいましょうか？選挙の為だけに軽々しく公約を掲げ、あつと言う間に日米・沖縄県との関係を壊した上に中露に付け入るスキを与えた失政のケツを拭いてもらいたいものです。

平成 22 年 11 月 22 日

きまぐれ通信 其の38

●もう一つの「トラ・トラ・トラ」

「トラ・トラ・トラ」とは、1941年12月8日、日本海軍が真珠湾を攻撃し「ワレ奇襲に成功セリ」と言う意味の暗号として打電されたのは有名な史実ですね。真珠湾奇襲攻撃は幾度と無く映画化され黒澤明監督の「トラ・トラ・トラ」を観た事が有ります。また攻撃開始命令は「新高山登れ」と言う暗号だったのをご存知の方も多いと思います。ちなみに攻撃中止は「利根川下れ」。攻撃失敗は「トキ・トキ・トキ」と言われますが諸説あるようです。もう70年も前の事になります。

さて、日本の自動車産業が創世記を経て海外への輸出を視野に入れ始めたのが1950年代。日産自動車も自動車先進国である米国での販売を目論んでいました。当時、日本車の性能は日本の狭い国土、そして道路が充分整備されていない中で何とか使用に耐えられる程度だったのです。そして米国で通用するか？は疑問だったのです。米国にはすでに高速道路網が出来つつあり、長距離かつ高速走行が可能な性能が要求されたのです。しかし当時の日本車の性能では米国における過酷な条件下では厳しく、米国に持ち込んで試行錯誤の試験走行が繰り返されました。詳しい基準は判りませんが、当然の事ながら走行試験をクリアするのは即ち輸出が可能となるハードルでした。満を持して試験に臨んだ時、その成功を知らせる合図が「トラ・トラ・トラ」で有ったとされます。米国で日産車が走る夢と「虎は千里を駆ける」をダブらせたのでしょうか。かくて1958年「ダットサン」のブランドでの輸出にこぎつけたのです。「トラ・トラ・トラ」は米国輸出と言う門戸を開けると言う意味で日産にとっては歴史的な暗号だったのです。かつて真珠湾攻撃を受けた米国にとってはひんしゆくモノですが、

余談ですが、日産自動車の前身ダットサン(DATSUN)は、創業者(出資者)3名のイニシャル(田、青山、竹内)の息子(=会社)と言う意味で“DAT”の“SON”(息子)で、DATSONでしたが“SON”は「損」に通ずるので、輝く太陽の“SUN”を使って“DATSUN”としたそうです。後に米国でも「日産自動車」の社名を前面に出したのですが、先にダットサン(向こうでは「ダツン」と発音)で

売り込んだのでブランドイメージが強くイコール「ニッサン」とするのに時間が掛かったようです。

平成 22 年 11 月 30 日

気まぐれ通信 其の 39

●レアメタル・レアアースよもやま話

電子化、ハイテク化が更に進んで話題を集めているのがレアメタルやレアアース。「レア」とは^{まれ}希と言った意味で、日本語では「希少金属」「希土類」などと呼ばれるのです。それらには厳密な呼び方の区別はないようです。

例えば「金 (GOLD)」は、1 トンの鉱石から 5 g の金しか採れません。プラチナに至っては 3 g 程度とされます。これを鉄と比較すると、1 トン鉄鉱石からは 600~700 Kg の鉄が取れるので、その差は歴然ですね。希 (まれ) な金属といわれるゆえんです。

私たちが日常手放せない携帯電話には少なくとも 8 種類のレアメタルが使われており、それらは金 (回路など) ・インジウム (液晶画面) ・ガリウム (液晶バックライト) ・ネオジウム (パイプの磁石) ・パラジウム (基盤) ・ガリウム (アンテナ) ・リチウム (電池) ・ストロンチウム (スピーカー) などとされます。

それらの鉱石は中国に集中しているとされますが世界中を調査すると結構鉱脈が存在します。しかし採掘のコストが安い中国に太刀打ち出来ないのが鉱脈はあるのに採掘していないのが現状とされます。と言う訳で特定のレアメタルに関しては中国の独断場となってしまった訳です。

そこで見直されているのが、廃棄された電機・電子製品です。先ほど 1 t の金鉱石から金は 5 g しか採れないと書きましたが、5 g の金を取るのには不要の携帯電話を 90 台ほど集めれば取れるのだそうです。先ほど書きましたように携帯電話を始め電子機器にはさまざまなレアメタルが使われているので鉱石よりも遥かに効率よく採れるので、それらの効率よい回収技術の開発にも力が入るわけです。

また、レアメタルの高騰に伴い、今まで中国の競争力に勝てなかった資源保有国も採掘を再開する動きも有ります。レアメタルを極力使わずに欲しい性能が得られる技術の開発にも力が注がれています。

余談ですが、40 年ほど前に日立が「キドカラー」と言うカラーテレビを売り出し、飛行船を使って全国キャラバンで宣伝をした事がありました。その「キド」とは「希土 (キド) 類」金属を使ったブラウン管で「輝度 (キド)」を高めた明るい画面のテレビで有ることを伝える商品名だったそうです。

平成 22 年 12 月 14 日

気まぐれ通信 其の 40

●年賀状よもやま話

新年にはあいさつ回りをするならわしが有りますが、遠い所には新年とは言え中々行けるものではありません。そこで年始の挨拶状がその代わりを果たしてくれたのだとか。さかのぼると平安時代の上流社会でそのような書簡のやりとりがあった事が確認されており、時代が変わってもそれらの風習が脈々と受けつがれたようです。

明治時代になって郵便制度が出来ると「年賀状」と言う現代とほぼ同じのスタイルが確立され、一般的になっていったようです。欧米などではクリスマスを祝う「クリスマスカード」が普及していますが、日本人一人当たりの年賀状枚数はその比ではない程多いのだそうです。年に一度、デザインを考え、写真を入れたり工夫を凝らした年賀状をもらうのは楽しいものです。

しかしながら、携帯電話を始めとする電子メールの普及で年賀状の枚数は減って来ているのはニュースでも聞きするところです。今や書籍までデジタル化の波が押し寄せ昔ながらの年賀状も岐路に立っているようです。

余談ですが、昔「プリントゴッコ」と言う葉書のイラストを個人でも作成、印刷できるものが流行りました。使った事がある方もおられるでしょう。そんな中、高校の同級生と年賀状のやりとりを続けている中で、生年月日が同じ友達と偶然3年連続でお互い同じデザインだった事がありました。配色こそ違ったものの妙な感覚だったのを思い出します。同じ生年月日だと何かあるんでしょうかねエ (^ ^;

さて、皆さんのところには来年はどんな楽しい年賀状が来るのでしょうかね。

平成 22 年 12 月 21 日

おまけ

表現の自由！？責任の所在は？～

東京都でマンガの描写に規制をかける条例が可決された。出版社は表現の自由を侵されると猛烈に反発。石原都知事は、わいせつ出版に関わる者が、それらの本を自分の子供に見せられるのか？と言う趣旨の発言をしていたと思います。双方共にもっともな意見と思われます。しかしどの人も、どのマスコミも表明しないのが表現の自由に対する責任の所在です。悪しき影響を及ぼしかねない情報や表現の垂れ流しは、いわば公害と同じ。それらをきちっとコントロールできるのか？それらが原因でもたらされた歪曲された考えや犯罪には因果関係の特定は難しいものの影響の可能性があってもおかしくないのです。それらによる悪影響の責任は誰が負うのか？が論じられないのは甚だ片手落ちです。「自由」と言う言葉がひとり歩きする日本は、過去の民主主義に関する教育が貧困だった事が垣間見えます。「自由」と「責任」は一对でなければなりません。

平成 22 年 12 月 21 日

気まぐれ通信 其の 4 1

●現代によみがえるピータードラッカーの提言

ピータードラッカーとはオーストリア生まれの経済学者で近代組織論を説いた学者です。丸一の創業年の1909年に生まれ95歳の長寿をまっとうされました。最近になって彼の理論が脚光を浴び、日本ではマンガにもなって少し話題になりました。

彼の根本には「ヒトはどうすれば幸福になるのか？」が有ります。その中で人を2通りに規定し

「個人としてのヒト」

「社会的存在としてのヒト」

としました。基本的に人は何らかの組織に属していると考えており、その組織に属することで幸福になるにはどうすれば良いかを探り続けたのです。彼の組織論は基本的に「非営利団体 (NPO)」の運営を主眼としていますが近年、会社などの「営利組織」にも適う事から見直されてきたのです。

組織 (会社) における自己実現を通じ、社会に貢献する為には組織の支援が必要となるのですが。

それらを集約すると

- ・会社や同僚に敬意を払われているか？
- ・仕事上の能力を高めようと思った時、会社や同僚は応援してくれるか？
- ・あなたが貢献してくれる事を会社や同僚は知っているか？

となります。当然の事ながら各人の人間力や向上意欲、コミュニケーション力が前提なのは言うまでもありません。個人個人が高まることにより、個人←→組織の相互関係が高まり、その結果組織の力も高まるのです。要するに組織に属する限り、組織もそれに属する人もひとりよがりでは用を足さないと言う事です。人間、自分一人で出来る事はごく小さな範囲に限られるのです。一人で生きている、または生きて行けると思っている人がいるとしたら思い上がりもはなはだしいのです。

平成 23 年 1 月 6 日

気まぐれ通信 其の42

●トンカツか？ ～日本を二分する冬の料理！？～

年末の猛烈寒波による積雪で停泊中の鳥取の漁船がひっくり返ったり沈んだり、、、と「50年漁をやってこんな事は無かった」と嘆いている漁師さんのインタビューもありました。5トン級の船に10トンの雪が積もる。予想を超える豪雪になすすべも無かったのは止むを得ないとは言え漁師さん達には酷な事です。

ちなみに重さを示す単位「トン」とはワインの酒樽を叩いた時の「トンっ」と言う音が由来とか。それで樽1個が1トンと、まあ冗談めいた話ですね。大量輸送は船が主流だったその昔、船の運搬能力を示すのに樽をいくつ積めるか？が目安となったのでしょよね。ちなみにその頃の樽1個は今の1トンよりも十数キロ重かったようです。

ところで「トン」から「豚」、と少し強引ですが、豚肉を使った料理と言えばはトンカツ、トンテキ、豚生姜焼き、酢豚、豚骨ラーメンなどなど少し挙げただけでもバラエティに富んだ身近な食材です。また良質のたんぱく質やミネラルなども多く、疲労回復に良いビタミンB1も豊富とされます。また赤身に含まれる成分の中に脂肪燃焼を助けるものも有り、料理法によっては意外やダイエット食品でもあるようです。

さて、この寒い時期の料理の一つに「豚汁」が有りますね。皆さんはどう読まれるのでしょうか？

「とんじる」？ はたまた「ぶたじる」？

先ほど何点か挙げた料理では読み方はほぼ決まっていますが、これはどちらも読めますね。

NHKの調査によると「ぶたじる」は西日本と北海道が主流で「とんじる」は東日本に多く全国平均では「ぶたじる」派46%「とんじる」派54%と言う事で、日本を二分する料理なのですわ〜っておおげさか(笑)

ちなみに新潟県の一部では「スキー汁」とも呼ばれるようで、興味深い事です。

さて寒いこの時期、晩ご飯の一品に「豚汁」を一品加えては如何ですかな〜？

余談ですが、豚肉は玉ねぎや、にんにくと一緒に料理するとビタミンB1の吸収が良いようですよ！！

平成23年1月11日

気まぐれ通信 其の43

●私達に襲いかかる「ソーシャルエンジニアリング」とは？

この耳慣れない言葉を日本語に直訳すると「社会工学」となるのですが、一般に「工学」とは社会に利便性をもたらしてくれる存在だと私は認識しています。しかし、この工学についてはまったく逆の「反社会的工学」と言えます。何故そうなのでしょう？

これはコンピュータネットワーク社会の中で巧みに情報をつかむ手法の一つとされます。

今やコンピュータは情報流出を防ぐべく、さまざまなセキュリティを施されており、正面突破で不正に情報を得るにはかなりのコストや手間を掛けなくてはなりません。

例えば銀行などの金庫は分厚い扉や壁で護られており、おいそれとは破れませんね。しかし、扉さえ開けば壊さなくても良い訳です。さながら金庫の扉を開けさせるように人を導く、、、これが「ソーシャルエンジニアリング」の目指すところなのです。

人の心理を巧みに突いて付け入る、人の行動パターンを解析して利用。はたまたゴミ箱から情報を収集したり(トラッシング)、セキュリティのキーマンとなる人物、例えば会社の部下や友人を装う(ネームドロップ)などと言う手法があるようです。それらを巧みに使ってパスワードが入手されると、嚴重なセキュリティに護られたはずのコンピュータシステムは無防備になってしまうのです。セキュリティシステムを無理やり破って進入するコストを考えれば、人をだます方が遥かに楽なのです。と言う訳で私達の情報の流出は、いつ発生してもおかしくないのです。

しかし「ゴミ箱あさり」と言うベタな手法も「工学」ですかア(^^;

かつて日本中で話題になった「振り込め詐欺」なんかも人間心理を巧みに利用したり、なりすましたり、郵便受けやゴミ箱をあさったり、などと言う点から見てもソーシャルエンジニアリングの仲間と言えそうです。

平成 23 年 1 月 23 日

気まぐれ通信 其の 4 4

●たき火とツボ

秋から寒い時期にかけて、昔は広場などで落ち葉などを集め「たき火」を良くやっていたものです。寒さで凍てた体をぬくめようと焚き火にあたったものです。今や、たき火をするにもいちいち消防署に届け出なければならず、身近な風物詩ではなくなってしまいました。

ところで、当たり前ながら、たき火やストーブにあたると体が温まりますね。でも全身火に当たっている訳でもないのに何故ぬくもるのでしょうか？

鍼、灸、マッサージなどで身近なツボは頭を中心から網目状に広がっている経絡（けいらく）に沿って点在しています。それらは特に手や足の先に集中しており、手をかざすだけで手先のさまざまなツボが刺激を受け、体の血管を広げてくれるのだそうです。と言う訳で、手を温めるだけでも体がぬくもるのです。足湯もほっこり感じるのはそのお陰とされます。

ちなみに中国数千年の歴史からなる鍼灸、漢方と言った治療法は膨大な実践の積みか重ねからなる経験医学とされますが、その実、時の皇帝の命を受けた医者などの手によって累々たる人体実験の犠牲の上に練り上げられた治療法といえます。とは言え、今の医学や医術も昔と比べたら遥かに人道面に立ってやっているとは言え実験的治療の上にそれらの進歩が有るのですが、、

平成 23 年 2 月 1 日

気まぐれ通信 其の 4 5

●オオウラさんと丸一金属

「オオウラ」さんは丸一金属工業と同業者。元々「大浦機工」と言う社名で約 50 年ほど前に荷台・スタンドの製造を始められました。現社長は 75 歳とされましたが、ご息はその事業を継がずオオウラ食品事業部として洋菓子を創っておられます。もう荷台・スタンド製造についてはこの 3 月で止められるとの事で、過日会社にこられました。その時に話して頂いたエピソードをご紹介します。

大浦社長は 4 男坊。元々木工所だったと言う事で、後々兄弟が財産分けなどでもめないよう、それぞれ別々の仕事をするように仕向けたそうです。「これから、いったい何をしたらええんやろ？」と迷っていた昭和 29 年頃、武田自転車の先代社長から声が掛かり「自転車の荷台とスタンドが足らんねん。他の部品は揃ってもこれだけ揃えへんねん。」と言われ、これが荷台・スタンドを製造するきっかけとなったそうです。しかし何の知識もないから当時市中に有った製品を見よう見まねで製品を作らざるを得なかったのです。そんな中、丸一の特許がそのスタンドに使われており、当時の丸一社長と先々代に呼び出され「勝手にウチの特許を使ってもらったら困る！」と文句を言われたそうです。大浦社長にしてみれば見よう見まねで作ったから特許もクソも判らない、、しかし「作る前に色々スタンドを研究したけど、これが一番良かったんです。」と言ったところ「そうか。ほんなら大浦さんだけは、ウチの特許を使ってもええ」とお墨付きをもらったそうです。なんと単純でほほえましい！と感じるのは私の臆見目でしょうか？

またその昔、柏商工(当時の同業者)の長谷川社長と丸一金属の先代社長に今後についての相談にも乗ってもらった事も有って世話になったとも言われてました。

大浦社長が丸一金属へ来られたのは今回で 2 回。50 年程前の創業時に特許について呼び出された時と今回の荷台スタンド製造中止のご報告と引継ぎ。丸一金属が 3 代に亘って関わらせて頂いた、と言うのは何か縁を感じます。

大浦社長はアイデアマン。10数年前、NHK テレビで25分枠の番組で地道にアイデアを取り入れて取り組む中小企業として放送されたのを観ましたし、オオウラさんの有る堺方面へ出向いた時、時間が有れば寄らせて頂き、色々と教えて頂いたものです。

今回の撤退は寂しい限りです、、、

(株)オオウラ年 譜

大正 7 年 大浦幸次郎（現社長の父・先代）、兄弟で木工所を開業

昭和 5 年 8 月 独立し大浦木工所を開業

昭和 26 年 2 月 (株)大浦木工所とし先代社長が代表に

昭和 32 年 6 月 キャリア・スタンドを製造販売することにより大浦機工株式会社と商号変更する

昭和 52 年 5 月 先代の死去に伴い、現社長 大浦登氏が代表に

平成 4 年 4 月 製菓・製パン飲食業を営業品目に加えるにあたり「(株)オオウラ」に変更、現在に至る。

※大正 7 年創業ではほぼ創業 90 年と老舗会社でもある

平成 23 年 2 月 8 日

気まぐれ通信其の 47

●和菓子の例外！？

私たちに身近なケーキやスイーツと言った洋菓子は小麦粉をベースとし、ゼラチン、牛乳、バター、卵など動物性の材料をふんだんに使って作られますね。

片や日本伝統の和菓子。それらは穀物や木の実など植物由来の素材を基本としました。しかし、1500年代にポルトガルから伝来されたカステラはその後日本に定着し、舶来ながら和菓子に近い路線を歩む事となりました。カステラには卵がふんだんに使われており、それまで植物性の素材一辺倒だった和菓子の世界に新風を吹き込んだのでした。と言う訳で近年まで和菓子の材料にまつわる唯一の例外は動物由来の「卵」を使う事だったとされます。

最近では洋菓子の素材を積極的に取り込み、生活様式の変化を捉えた進化した和菓子が増えたような気がします。例外はいつまでも例外に有らずなのですね。

つい最近、知り合いの和菓子屋さんが生クリームとあんを組み合わせで新しい“和菓子”を創り始めたのを知るにつけ、伝統的な和菓子も時代に敏感にならざるを得ないと感じます。

お彼岸も近づいてきましたが、昔彼岸ともなると家で“おはぎ”を作っていました。小豆で作ったアンコの呼び名は「粒あん」が「半殺し」、「こじあん」を「皆殺し」と言っていた記憶が有ります。小豆の粒や皮が残っているから“半殺し”、それらが無いから“皆殺し”なんでしょうね。昔の言い回しながら、ちょっとオソロシイ表現の仕方ですね、、、(^ ^ ;

平成 23 年 2 月 22 日

気まぐれ通信其の 48

● 膨れる闇金融市場

個人向け無担保融資。いわゆるサラ金は昨年の法改正で借入れ総額の規制が強化された。借入れ総額は年収の3分の1とする規制である。新たに借入れ出来なくなったり、借入れ見直しの対象者は約600万人と試算され、2009年に9兆9千億円有った正規のサラ金業者の貸し出し残高は7兆円となり3兆円近い減額となったわけである。はてさて、この3兆円はいつこへ？

この不況下、借入れをせずには立ち行かない人も大勢居り、いわゆる闇金に走らざるを得ない状況が増えるに伴い、闇金業界は活況を呈していると言う。

企業においても金融機関の貸し出し姿勢は強硬で、正規の金融機関から借り入れできず闇金に走ってしまうケースも多くなったと言う。法外な金利を払えず保証人や親戚ともども骨の髄までしゃぶり尽くされるのは当たり前。なれの果ては、いつの間にか闇金業者の手先となって不法貸金に携わっている元経営者もいるのだとか。

一昨年、金融モラトリアム法案、、、企業延命の為、貸付金の返済を猶予したり借り入れ金の返済方法を一時的に緩やかにする悪法が施行された。猶予期間中には景気が回復し、企業は返済できるようになるだろうと言う甘くも恐ろしい法案だったのだ。その施行に対し、ヤクザまがいの貸しはがしも行われた。また、その猶予期間が過ぎようとしている中、景気が回復に向おうとしている状況とも言われるが実際の返済が始まると、そんな余裕など無い中小零細企業も少なくなく、更なる借り入れが出来ない企業は延命の為に闇金に走ってしまう事も有る。ここ数年は、金融機関にとって中小零細企業から目が離せない状況が続くだろう。かくて法改正によって、予測されていた通り闇金市場は活況を呈すると言う皮肉な失政となってしまったのである。

ちなみに、上限金利を上回ったとして利子の返還訴訟が話題になったが、それらは「合法的な融資」に対しては有効で、闇金に関しては「不法な融資」なので利子の返還訴訟は出来ないと言う矛盾が生じている。また、闇金は貸した証拠を残さないか、または「書き換え可能な証拠」を使うので裁判まで持ち込むのは容易ではないとされる。

平成 23 年 3 月 1 日

気まぐれ通信 その 4 9

●メガクエイク

昨年の 1 月～3 月にわたり、4 回にわたる NHK の特集番組で「メガクエイク (=超巨大地震)」を特集していた。神戸の震災、地震発生メカニズム、長周期の揺れの怖さ、そして第 4 回は「津波」であった。奇しくもその第 4 回「津波」の放映は丁度 1 年前。今回の惨事を予言するものとなった。この特集は、確実に来る東海、南海の大地震を想定し高知県に津波が襲うと言う設定でした。CG による津波が街に襲い掛かるシュミレーション、スマトラ島の実映像を元に現代の都市に津波が襲うとどうなるか？のシュミレーションでした。今回の津波では東北の中小の街が多く、その結果多くの民家や建物が流されてしまいました。津波がビルの多い都市部を襲うとビルなど丈夫に作られ民家のように流されません。今回とは違った津波の流れとなって今回の被害に加え、過去には無かった災害につながるとされます。地下施設・地下鉄もしかり。私たちがかつて経験した事のない大規模都市型災害の発生の可能性が有ると言う事です。

この番組を観て地震とそれがもたらすさまざまな脅威と自然に対する人間の無力さを改めて認識した記憶があります。

この第 4 回のプログラムについて以下のような説明があります。

「津波は自然災害の中で人々が向き合うのが最も難しい災害である」という思いだ。発生が極めて低頻度であるがゆえに被災体験が共有されず、しかし、一度起きれば広域に甚大な被害をもたらすからだ。番組では、一人でも多くの命を救いたいと地道な努力を続ける研究者たちのルポにドラマを絡めながら、都市を襲う津波の真の姿を”未来の被災者”にリアリティ豊かに伝えていく

皮肉にもこれほど早く“未来の被災者”が現実のものとなるとは、、、

今は、被災者の方々へのお見舞いと、犠牲者のご冥福を祈るしかありません。

これからのほんの経済活動にどのような影響が出るか？は想像が付きませんが、経験と知識、さまざまな意見に耳を傾けてあらゆる可能性を想定し、可能な限り策を持てるよう準備をするしかありません。

もちろん、日常生活も、、、

平成23年3月16日

●2007年5月の全体会議で講義した「地震の備え」より

緊急持ち出し品の例 ～地震に限らず、他の天災や人災のために～

- ・非常時安全ろうそく(マッチ付)
- ・三角巾
- ・綿タオル
- ・防塵マスク
- ・懐中電灯
- ・単三電池
- ・パンの缶詰
- ・ミネラルウォーター
- ・レスキューホイッスル (笛一孤立した時の為に)
- ・すべり止め付軍手
- ・水コック付き飲料水運搬バッグ
- ・発電機付きラジオ (ライト、携帯電話充電機能が付いていると、なお良い)
- ・通帳番号の控え (名義、銀行名などは書かず番号のみ)

あとは、個人で必要と思われるものをすぐに持ち出せるようにしましょう。

平成23年3月15日

気まぐれ通信 その50

●福島原発事故の現状は人災

今回の事故では事態が刻々と悪化し、ついにはレベル5となり原発事故では最悪の状況となった。アメリカでは32年前、スリーマイル島の事故を教訓に以降の世界で発生した事故をつぶさに検証し危険回避のノウハウを蓄積してきた。逆に言えば、初期の段階でどのような処置を取らねばならないかの選択肢はいくつか持っていたのだ。

福島原発で想定外の事が起こってしまったものは仕方が無い。「想定外」なのだから。一番大事なのは起こってしまった後の対処です。「想定外」だからそれ以上の大きな対処をせねばならない。そこに最初の対処を私利私欲で誤ってしまった日本政府・東電の姿が有ったのだ。

事故の直後、アメリカからの対策案提案に対し日本は蹴ってしまったのだ。何故か？アメリカの事故対策を実施する事、それは原子炉が2度と使えなくなる事を意味したからである。

アメリカの判断は事故当初からかなりの深刻度・危険性を予見していたようで、早急に処置しないと最悪になる事が充分わかっていたのだ。まさに事前の一策は後の百策に勝る典型であろう。

日本の最初の判断。それは原発推進を守るために自分達で処理して「たいしたことは有りませんデシタ」とトボケルシナリオを持っていた事。非常に甘い判断で自分達の利権を守るために最悪な状況を招いたれっきとした「人災」なのである。首相は「みんなで乗り切りましょう」と、、、誰がこの事態を招いたのか分かって言っているのだろうか？責任逃れも甚だしい。信じられない厚顔、ノー天気ぶりである。

もし、米国の進言を受入れ、原子炉が2度と使えなくなった状態で放射能漏れが最低限にとどまり、事態が收拾していたらどうだろう？「アメリカのせいで高価な原子炉が使えなくなり発電も出来なくなった」と文句を言ってただろう、きっと、、、この「結果に対する批判」も判断を鈍らせたのだらう。何が一番しなければならぬかが分かっていないのだ。曇った目では的確な対処は出来ないだろう。

今回の対処で、またまた日本の政治は世界の笑いもの。国民には不幸の押し付け、、、どこまでクサレ官僚・

政治屋は自己保身に走るばかりで無能なのか！

これで軌道に乗りかけていた日本の安全でおいしい農産物の輸出は頓挫。観光立国を目指すもこれとて敬遠される。「MADE IN JAPAN」の工業製品も暫くの間影響を受けよう。

自分達の小さな事を守ろうとした結果、更に多くの人たちを深い不幸に陥れ、国益を計り知れなく損ねた、れっきとした人災である。

また決死の覚悟で必死に作業に臨んでいる方々への敬服の念があるのだろうか？と疑問にも感じる。こんな時に良く分かるのが関わる人たちの資質である。役立たずは即刻退場しなさい。

私が過去に言い続けて来たダメ政府、一部のクサレ特権すがりつき官僚の無能・無配慮ぶりがこのような最悪の形で改めて裏づけられてしまった、、、

平成23年3月22日

3/29 追記：あろう事か、事故のレベルは6に。そして情報開示レベルは0に、、、

自分達が出来ること

20日の日曜、地元まつりの町と町会で援助募金活動を行った。私の町、野堂北組は140戸あまりの小さな町。その中で色々な方々が持ち寄って下さった。「パソコンを始めようと貯めてたんやけど」と言うご婦人。子供たちのこづかいから精一杯の善意。親戚が東北に、、など。日用品も沢山持ってきて頂いたのです。私たちが募金をしているところに「ご苦労様」と寄付と共にパンを届けてくれたパン屋さん。この募金活動は実施の2日前に決定したにも関わらず、まつり関係者始め町内の沢山の方々にお手伝い頂いたのです。

同じ思いで行動する事の人の気持ちとエネルギーを感じた1日となったのです。現地に出向いて活動するのは物理的に無理です。せめて出来る事は実行したいものです。

被災者の方々、被災地、そして日本が1日でも早く立ち直る日が来るよう。あらゆる自然災害は、色々な意味で他人事では無いのです。それぞれに出来る事をやるよう心掛けましょう。

また、今回の大震災で日本人が忘れつつあった心根が戻ってくるきっかけとなれば、被害に遭ったの方々にとってせめてもの救いと感じます。

平成23年3月22日

気まぐれ通信 その51

●統一地方選挙

大震災の爪跡と不安がまだまだ残る中、大阪では4月1日から統一地方選挙が始まります。今回の大震災で嫌と言うほど見せ付けられた無能政治家達の行動、言動。そして保身。

本来、選挙で選ばれ国家・地域のために粉骨砕身するはずの公僕たる者たちが保身にまわった挙句、とんでもなく国民の生活と国益を損ねているのは周知の如くです。

マスコミは20万円程度の献金で政治家を追求するのに、こんな国家の危機に際し失政を追及しない。こんなチグハグな報道姿勢は、マスコミの実力が凋落している事を象徴しているように感じます。

人は非常事態に対峙した時、本性や実力が現れます。失礼な言い方かもしれませんが、この国家の非常事態をきっかけとして、真正面から取組める公僕を選びたいものです。また、実力の無い不相応な議員を退場させる機会でもあるのです。

難しい事ですが、私たちは「この人っ！」と言う見極めをし、投票したいものです。税金ドロボーの肩書き大好き議員は要りません。

昔っから言い続けてますが、私たちが厳しい目をもって選挙に臨みましょう。役立たずが議員になったら、しっぺ返しは私たちに返って来るのです。それが今回の大震災で顕著に現れたと同時に、小さな町村の首長で精一杯奮闘されている立派な方々も拝見しました。

肩書きではなく「人」に尽きます。

おまけ

●大阪市の「貢献」！？

今回の大震災に際し、大阪市の一般職員が東北に派遣された。それもトンボ返り状態の短い滞在だったと聞く。何の為に行ったのか？自治体として大震災に対し、何らかのアクションを起さねば「面子」が立たないからだそうだ。「面子」の為に貴重な税金から「交通費+出張手当+ナントカ手当て」が使われたのだ。こんな死に金を使うのだったら「救援金」に回した方がよっぽど「生き金」になる。これも非常事態における公務員の常識だろうか？いえいえ、誰が見ても「火事場ドロボー」の「非常識」である。

尚、この話については、消防や防災関係者は身を挺して現場に臨んでおられる方が大半なので除外です。

サルにも分らん？政府情報の推移 原発事故に関し、知り合いのメールを少しアレンジしました

「2重3重4重の安全策があるから日本の原発は大丈夫。安全ですよ！」

↓

「もう停止しているから心配なし。安全ですよ！」

↓

「爆発したけど放射能漏れの危険はありません、安全ですよ」

↓

「放射性物質漏れたけど、水や食物の汚染はないので安全ですよ」

↓

「水や食物から放射能検出されましたが、ただちに影響ないので安全ですよ」

↓

「基準値が元々厳しすぎたから引き上げました。よって今は基準値内だから安全ですよ」

↓

「ヨウ素は半減期短いから安全ですよ。プルトニウムは重いから原発周辺に留まるから安全ですよ」

↓

「発癌や白血病が発症確率の上昇は数%しかないから大体安全ですよ」

↓

「因果関係は証明できません。原発から漏えいした放射能はあなたの癌とは無関係ですよ」

↓

で、究極の枝野さん、、、

「私の顔がこわばってますが、気のせいです。問題はありませんよ〜」ってなるのでしょうか？

「ただちに影響はありません」もクセモノの表現です。アトアト影響がある（かも知れない）の裏返しですから。極めて無責任で先々の言いのがれを含んだ発言です。この先どのような（に）情報発信をするのでしょうか？全く信用なりません、、、

平成23年3月29日

おまけ 風評（思惑）と情報

今回の大震災の教訓の1つに「悪い情報ほど共有しなければならない」と言うのが有る。うわさ、風評で惑わされるのは情報が充分で無いからである。悪い情報を共有する事により、思い思惑が軽減され、より多くの人が同じ方向に向き、問題解決に取り組めると言うもの。不十分な情報は、人々を惑わせ間違った方向に導いてしまう。それは会社や、地域社会、ひいては家庭でも通じることとを感じる。

良い悪いを問わず、その組織においてそれら情報を共有する事は重要で物事をスムーズに運ばせる役割は大

きい。

平成 23 年 4 月 12 日

気まぐれ通信 其の 5 2

●忘れてはならない先人の警告

今回の大震災で浮かび上がった先人達の知恵がクローズアップされています。

地震でなくとも昔からの言い伝えで、山崩れの起きやすい場所では「あそこの山のふもとに家を建ててはならない」と言うのが良く言われ、豪雨によって住宅造成地に土砂災害などが発生するとその事を指摘されますね。

今回の大震災では津波による被害が甚大だったのは周知の通りですが、津波に対し、先人の残した警告や知恵が明らかになってきたのです。

その 1 つが石碑。明治時代に津波に襲われた村が「此処ヨリ下に家をたてるべからず」と言う石碑を残し、それを守った村が今回の津波の被害を免れたと言うもの。その津波は石碑の 5 0 m 手前まで迫ったそうです。また、東北の旧街道・宿場町と津波が襲った地図を重ねると、その街道は見事に津波を避けて作られていた事が判明しました。

少し前に書きましたが「津波は発生が極めて低頻度であるがゆえに被災体験が共有されにくい」にも関わらず、先人達はその数少ない経験を大切に後世に伝えようとしたのです。現代は「文明が発達したが文化が衰退した」とは私が常々言っている事ですが、科学や技術などの文明を過信し、先人の過去の経験を大切にす文化をないがしろにしたのだらうと感じます。石原都知事の「天誅が下った」との誤解を招きかねない発言は、このあたりを指していたのでしょうか。

余談ですが、誰も自然に勝てないと私は常々言ってます。平成 18 年～19 年に掛けて「地球の運命を変える隕石の話」では、直径 2 Km 隕石が太平洋に落下すれば津波の高さは 2 0 0 m であると書きました。また、「生きている地球」では地殻変動の怖さと寒冷地の氷が溶ける事により陸地が浮き上がり更なる地殻の歪みが蓄積され、予期せぬ大地震が発生するとの私見を書いた事があります。今後もこのような事が遠因による地殻変動で予期せぬ災害の可能性はどこにでも有ると常々考えています。

平成 23 年 4 月 19 日

気まぐれ通信 其の 5 3

●日本の評価・世界の評価

つい先日「世界記憶遺産」に故 山本作兵衛氏の絵が選出されたニュースが有りました。山本氏は父と共に 7 歳から筑豊の炭鉱で働き始め 6 0 代半ば頃まで現役の炭鉱マンを勤め上げたのです。その間、炭鉱での生活の記録を残し、現役引退後の 6 3 歳からそれらを「絵の記録」として 1 0 0 0 点余り描き残したのです。詳細・克明な絵と共に説明書きが添えられており、その内容の正確さ故に主に海外の研究者の評価が高かったようです。日本国内での評価は余り、なされなかったのですが、それらを高く評価する方々と炭鉱遺産の町、田川市の推薦でユネスコの「世界記憶遺産」に申請され認められたのです。

日本では有名な画家でなければ評価の俎上に乗らない場合が多く、海外による評価で素晴らしさを認識すると言った事が多いと感じられます。

例えば今や高速通信の主役である「光ファイバー」は数十年前に海外で採用され、日本の企業はその基本特許の書類を求めて海外の特許文献を探しまくったのです。でも見つからない、、、やむなく日本の特許文献を探したところ東北大学の教授が考案した事が判明。まさに灯台下暗しです。

メーカーの担当者は、その教授に日参したのだとか。今でこそインターネットで検索も簡単ですが、当時は膨大な文献をあさったのでしょうか。日本国内での評価や関心が低いものが海外で認められてやっとその素晴らしさに気付く私たちの文化・技術は意外と多いのです。

余談ですがこんな海外ジョークも、、、

新製品のたどる道

アメリカ人；開発

日本人；小型化に成功

中国人；海賊版で普及

某国：元々は自国で生まれたんだ！と信じて疑わない

平成 23 年 5 月 31 日

気まぐれ通信 其の 5 4

●慣れとはオソロシイ

東日本大震災が発生してほぼ 3 ヶ月。それと共に深刻なのが福島原発の状況ですね。この時期になって「直後に炉心はメルトダウンしていた」「放射性物質は実は、、、」などなど我々素人が政府発表を信用していないにも関わらず、どこかで想像していた状態であって欲しくないと言う微妙な心理状態で今まで来たのかも知れません。

若し、震災発生直後にこれらの発表がなされていたらどうだろう。恐らく大パニックになっていたかも知れません。パニックにならぬようにする一番大事なのは「正確な情報」の開示と「的確な対処」を示す事と感じますが「的確な対処」について答えが見つからない状況の中で「後出し情報」を決め込んだと言われても仕方ありません。「心ある専門家達」は、原発事故発生直後から既に深刻な状況を予想していたし、その事を記者会見で話した東電の社員は記者会見には 2 度と出させてもらえませんでした。

オソロシイ事に、連日の報道での迷走情報、数値の上下・訂正等で危機感がマヒしてしまったところへメルトダウンだの計器が回復した結果ウンヌンでとんでもない事実がドサクサ紛れに発表された。今や「やっぱり、そうやったんや〜」と変に冷静に受け止めてしまうから慣れとはオソロシイ。

そしてドサクサ紛れに消費税増税論議、、、政府がマトモに機能せず復興のプランやお金の使い途もキチント論議されていないのに国民から絞り取る事が優先されている不思議な政治構造なのである。国家予算から出される 1 3 兆円にも上る各省庁の外郭団体へ不要なお金の見直しもありません。今回の震災で外郭団体が如何にムダで能無しかが露呈しました。彼らは「専門知識が有るから外郭団体が必要」といい続けて来たのです。また私が常々「B 勘」と言っている「特別会計」への言及もない。これらも「復興には膨大なお金が必要」とのアナウンスのもと国民の増税にたいする警戒を慣れで削いでしまい、論議をすり替えられているのです。木っ端役人・政治家たちの姑息な手法に見えて仕方ないのです。

国民不在で建設的な事が出来ない国家・政府によって日本はやがて行政・財政で立ち行かなくなり。韓国・中国ひいてはロシアの草刈り場となりかねないのを解っているのだろうか？過日、韓・中の首脳が揃って日本に来たのは下見であり、その序章に過ぎないと見るべきです。

平成 23 年 6 月 7 日

気まぐれ通信 其の 5 5

●何も応（答）えられない政治家達、、、

過日、テレビの討論番組で福島県原発被災地域の住民の方々と現地中継で出席した国会議員達とのやりとりをやっていた。

対応の遅れについて「誰が悪い、シクミが悪い、、、」ウンヌン。国会議員と言う政治の中枢に近い者達がまるで、自分達には責任が無いかの如く責任を他に求めている。法縛りを盾に保身をしているとしか見えないのである。

要するに、文句ばかりで意見が無い、、、

「〇〇が悪い」と言うので有れば、これらを解決すべく超法規的措置で乗り越える事が出来るはず。

大阪万博が開催された 1970 年のよど号ハイジャック事件では「人命は地球より重い」との見解から超法規的措置により逮捕拘留されていた連合赤軍のメンバー達が人質と引き換えに釈放され北朝鮮に向った。また近年では、北朝鮮の金正日の長男、金正男が日本に不法に出国・滞在していた際に身柄を確保したが、これまた超法規的措置で出国させた。更には中国漁船の海上保安庁巡視艇への体当たりで逮捕した船長を釈放、、、

このように超法規措置が簡単に出来たのに、多くの国民が不幸にあえいでる国家的危機に直面して小学生にも及ばないレベルの文句、責任のなすりあいでは保身に労力を費やし、要するに我々は「ほったらかし」なのである。

番組で住民の方々が「いつになったら元の生活に戻れるんですか？」と言う切実な質問に対し、どの政治家も無言を決め込んでしまった。震災・原発事故から 3 ヶ月も経ったのにこんな根本の問いかけに対して答えられないのを見ると本当に情けないです。スタジオで原発事故に対する対処を討議しているのに「笑い声が沸く」と言う状況に被災現地の方々も厳しく非難していました。

今後の対処には強烈なリーダーシップが求められよう。

菅（首相）内閣に対する不信任案が直前になって形勢が大きく変化、否決された。これとて議会解散をちらつかせ「解散すれば落選の憂き目に遭う」との危機感、“姑息的防衛本能”のゆえんである。もっとも“後任首相”もろくに決まっていないう暴走でもあったのです。ちなみに国会を開催すると経費は 1 日あたり 1 億円とも言われ、国民不在の不毛な国家予算と時間のムダ使いとなりました。

余談ですが、4 月に開催された政府・保安院・東電の 3 者共同開催の「外国人記者クラブ」に誰一人として外国のメディアが来なかったのです。図らずも、どれ程彼らの発信に対し外国の信用が無いかが証明されてしまったのです。更にこっけいなのは、誰もいない記者席に向って「Any question? (何かご質問は?)」と問い掛けていたのです。

嗚呼情けない、、、

平成 23 年 6 月 14 日

おまけ

新型インフルエンザがパンデミック状態になりつつあった時、多くの人が危機感を持ってマスクを付けている日本の異様な光景が各国のマスコミに奇異の目をもって報道されました。

しかし、、、、放射性物質が漂っているのに今回はそれほどでも無いですね。

あれだけ「内部被爆」について騒がれているのに、、、よう解らん国民性ですね

体よく原発の危機に「慣らされてしまった」のでしょうか？

●アメリカ在住の方からのメール

日本国民の危機感を麻痺させるようなことをしている暗雲（専門家や団体）が日本の空に覆いかぶさっている。

世界各国は怖いのに、日本の国民だけが、暗雲が青空と思いこまされている。

何てことだ！

昨日、日本へ 1 ヶ月行っていた人とランチをした。彼は東京や栃木で時間を過ごしてきたのだが、日本では誰もが何事もなかったかのように平然と生活をしていて、と驚いていた。

平成 23 年 6 月 14 日

気まぐれ通信 其の 5 6

●中国のアキレス腱か？

年々加速する中国の経済成長で足かせになりかねない事が 3 つ。

1 つは巨大都市で懸念される水不足。例えば北京の水消費は、郡部で 1 人 1 日平均 40 リットルに対し、そ

の5倍以上の200リットルに達している。まことにオソロシイ数字である。都市に水を供給するために周辺の水源は農耕に使われず、都市部へ、、、壮大な水路計画でその解消を図ろうとしているさなかである。後々自然に影響が出そうです。

もう1つは電力事情。これも生活レベルの向上のみならず生産活動に欠かせない重要問題なのです。中国は原発をポコポコとあちこちに作って電力需要の増加に対応しようとしていましたが、福島原発事故を受けて慎重に、、、今後、新たな「電源」を模索することになり、中国の成長を妨げる事になりかねません。そして、中国は成長を維持しないと民衆の不満が国内政治に向けられてしまうので政府は「何とかしないと」と恐れている状況です。十分な電力が無ければ持続的成長は難しい。民衆の不満を外に向けるべく尖閣諸島にちょっかいを出していましたが、南娑諸島近海でベトナムを始めとする周辺国でウロウロする訳です。しかし震災で疲弊している日本にジャブを打つ事も怠ってません。

にも関わらず、広東の広州市を中心に不満をバクハツさせた暴動が連日発生、押さえ込みに必死です。抑え込めば不満は一層つもの、、、暴動が各地に広まれば全土に延焼。今の体制のままでは「自国民に刃^{やいば}を向ける」以外止める術はありませんか!?

平成23年6月21日

おまけ

世界の電力消費量は2030年までに現在の3倍に!?

2005年の世界の家電電力消費は1時間あたり548兆キロワットとされ、家電製品の多機能化や新興国の台頭による機器普及などで2030年には1736兆キロワットに達するとされる。今回の原発事故でこの数字はどうなるのか?そして、どれほど再生可能エネルギーの割合が増えていくのだろうか?

平成23年6月21日

気まぐれ通信 其の57

●ドリンク剤よもやま話

疲れた時、とりわけ暑い夏に需要が伸びるのが、いわゆる「栄養ドリンク」。今やドラッグストアを見ると売り場で大きな顔をしています。お世話になっている方も多いでしょうね。

昔、親父が飲んでいた「グロンサン」と言うのを憶えています。ガラスのアンプル容器で口の細い部分をハート型のガラス切りで削ってパキッと折って口を開け細いストローで飲むシロモノでした。当時、注射液などはこのような容器が主流でした。

老舗ブランドのグロンサンは1960年に発売されたドリンク剤で元祖なような存在ですが、しばらくは中々売れなかったそうです。幼い頃、親父が飲んでいたグロンサンを少し飲ませてもらった事がありますが、とても子供が飲める味ではなく「苦いクスリ」と言う印象が残っています。その後1962年に「リポビタミンD」が発売されました。この時に採用されたのが「パイン味」で、その後に発売された多くのドリンク剤の味の基になったのです。

さて、何故パイン味だったのでしょうか?発売前には色んな味の選択肢があったのですが、当時高級な果物であり舶来のイメージも相まってパイン味が選ばれたとの事です。当時のキャッチフレーズでは「おいしいパイン味」と謳われておりそれを裏づけます。また「冷やして飲む」と言うのも当時としては画期的で大ヒットにつながりました。また、リポビタミンDに関してはCMキャラクターに時代を反映する元気な有名人が選ばれて来たのは周知の通り。「ファイト〜いっば〜つ!」は私達に刷り込まれていますね。ちなみにこのCMは1977年からだそうです。

さて、その味と一線を画するドリンク剤が1987年に出ました。「アリナミンV」です。それまで錠剤のビタミン剤として君臨してきたアリナミンですが、これから伸びると踏んだドリンク剤市場に打って出たのです。発売にあたって重要だったのが「味」なのは言うまでもありません。パイン味が主流となっていたこ

の分野で他との違いを打ち出す必要がありました。相当な種類の試作品を社員に飲んでもらい味の選定を進めたのです。意外と人気があったのが「苦味」を含んだ味だったのです。「あの苦いドリンクが欲しい」とドリンクの試作室に多くの社員が足を運んだトカ。苦味の刺激は結構気分転換につながるのでしょうか。それをきっかけとして以降は漢方薬っぽい味など素材を強調したような新しいドリンク剤の味が展開され、現在に至っています。にも関わらず、未だに「パイン味」は根強い人気ようです。

早や真夏を思わせる気候となり、ドリンク剤にまつわる事を思い出しました。

平成 23 年 6 月 28 日

おまけ

●濃ゆい1ヶ月

平野郷の夏まつりがもうすぐ目の前に迫った。まつりの寄り合いを含めると1年中なにがしか、まつりに関わる事があると言っても過言ではないのだが、6月末～8月には大きな行事が控えている。

まず、だんじりの飾り付け、そして前夜祭、、前夜祭は平野区民ホールで開催されるのだが警察、消防、行政、地域の役員、学校関係者など公的な方々を招待し地域に根ざしたまつりとして公的にもアピールする目的がある。

そして、7月頭の試験曳き。そして11日の朝6時頃、神社のふとん太鼓の出発を合図として4日間のまつりが始まるのだ。毎年決まった日にちなんで曜日は関係ない。巡り合わせで今年のように4日間ド平日のまつりとなってしまう事も、、、

まつりが終わって数日後にだんじりのそうじと、打ち上げ反省会である「楽作」が各町で行われ、夏まつりの吉祥をきる。

そして7月31日～8月1日にかけて三十歩神社の子供だんじりが執り行われ、これらの後片付けが終わってようやく平穏な日々に戻れる。各役員さん達にとって、それぞれにこなさねばならない事もテコ盛りあって息が抜けない時期でもあるのだ。

文章に書くとこの程度だが、旧平野郷に関わる者にとっては濃ゆ～い1ヶ月となる。

体力的にも、お金の面でも、仕事を持っている人たちにとっても魔の1ヶ月だとも言えるだろう。

好きでないと、こんなシンドイ、アホな事やっつけられまへん～

平成 23 年 6 月 28 日

気まぐれ通信其の58

●ライスカレーかカレーライスか？

夏に欠かせない食べ物として「カレー」がありますね。カレーはインド料理と言うイメージが有るのですが、インド人は毎日同じものを食べていても良く飽きないなアという印象を持っています。しかしインド人にとってはそれぞれ全く別料理なのだそうです。さまざまな香辛料が入っているインド料理はその配合により、全く別物と言う訳です。ちなみに実験でインド人にインド料理を数日間ガマンしてもらったところ、3日目まで異変が起こり始め、気力・体力が衰え始め、それ以降の実験は中止。と言う結果だったそうで、香辛料や薬味の効いた料理は彼らの活力源なのでしょうね。

さて、ご飯にカレーをかけて食べるのを「カレーライス」または「ライスカレー」って言いますね。俗に、ご飯にカレーをかけて出てくるものを「ライスカレー」。カレーがアラビアンナイトのランプのような入れ物に入ってご飯に後がけするものをハイカラな表現として「カレーライス」となったとされますが定かではありません。

明治時代、カレー料理が紹介されてからご飯と融合し、昭和40年前後の高度成長期までは身近な料理として「ライスカレー」と呼ばれ、それ以降は「カレーライス」とも呼ばれるようになったのだとか。昔を思い起こすと、学校給食のカレーはスープのようにシャブシャブで子供も喜ぶ洋食でした。経済的にも小麦粉

を足せば量を増やせる「主婦御用達」の料理でもあったのです。「ライスカレー」と言う表現が庶民的に感じるのはその為だとも言われます。その後、高級感を出すために「カレー」や「カレーライス」と言った表現がレストランや食品会社から打ち出され、私達もいつの間にか感覚的にその差を捉えるようになったのかも知れませんね。

ちなみに「ライスカレー」の名付け親は、「少年よ大志を抱け」と言う名言でおなじみの札幌農学校、クラーク博士と言われます。欧米人に比べ体格の劣る日本人に栄養のある食べ物を食べさせたいとの思いを綴った一文にこの表現が出ているからとされますが、これとて定かでは無いようです。

さて、あなたはカレーライス派？ライスカレー派？

平成 23 年 7 月 26 日

おまけ 魁皇関の引退

私の住んでいるすぐ近所にスポーツクラブが有り、時々身体をほぐしに行きます。そのスポーツクラブには年に数回、今場所で引退した魁皇関が来ていたのです。そこには魁皇関の勲章とも言えるトロフィーや賞状も沢山飾ってある事からそのスポーツクラブはタニマチの方なのでしょう。間近で見るとお相撲さんは山のようには大きいです。もちろん怪力。普通の人なら無理なウェイトも難なく持上げる、相撲取りはぶよっと見えても実は筋肉のカタマリ。キンキンに固く鍛え上げられています。で、今場所の魁皇関。背骨を芯にして左右に盛り上がっていた筋肉の山脈が低くなり、足腰も一回り小さくなっていました。大関として第一線で活躍し続ける努力は並大抵ではないのは素人でも解ります。でも体つきが今までと違うので今場所が最後かも、、、と感じた人は多かった事でしょう。

人なつっこい笑顔に強い意志。色んな人々に勇気と感動を与え、そして支えられ、素晴らしい力士人生だったと思います。一度も話しをした事はありませんが、身近に見ていた事も有り「お疲れ様、そして有難う」と心で見送りました。

平成 23 年 7 月 26 日

熱中症の予防について

屋外、屋内問わず暑い場所などで起こるとされる熱中症ですが、大きく以下の4つの複合症状によるようです。

熱射病—高温による体温調節機能の失調(脳への高温によるダメージ)

救急処置冷水をかけ、扇風機などで体を冷やす。体温を下げる。

熱けいれん—大量の発汗で塩分が不足

救急処置0.1%の食塩水を飲み、涼しいところで休養。

熱虚脱—体温の上昇を防ごうとし、無理な血液循環で心拍数が増加し限界を超えた心拍数となった場合

救急処置涼しいところで安静にし、水分を飲ませる

熱疲労(熱疲労)—大量の発汗で血液が濃くなり、全身に血液が充分回らなくなる。

救急処置涼しいところで安静に、水分を飲ませる。

いずれも「塩分・水分の補給 / 身体を冷やす」事が重要なようです。

しかし、事前に防止する方法として以下の事が言われています。

●塩分補給のポイント

熱中症対策には「水分と塩分の補給を」というのは、もはや常識。

ところが、私たちは日頃から食事で、必要量をかなり上回る塩分を摂取しているため、日常生活でジワジワと汗をかき分には、水分をこまめに補給していれば、通常の食事では十分です。過度に塩分をとると、逆に高血圧などで健康を害するリスクも。ただし、運動や屋外で作業をする場合など、大量の汗をかき場合は、汗腺における塩分の再吸収が間に合わず、大量の塩分を失ってしまいます。その場合は、適度に塩分（食塩水濃度 0.1～0.2%、ナトリウム濃度 40～80mg/100ml）を含むスポーツドリンクなどを摂ることがおすすめです。

ジワジワと汗をかき場合、身体の塩分が失われにくいよう塩分の流出を抑えようとするシグミが働くため高血圧の方は塩分を抑えねばなりません。逆にスポーツや仕事で大量に汗をかいた場合には塩分流出を抑える機能が追いつかず、身体の塩分が減少するので塩分の補給は必要となるのです。

●暑さに対抗するために

暑さに強い体とは、汗をかきやすく、体温が上がりにくい体のこと。最近の研究で、効率的に暑さに強くなる方法が見つかりました。それは、運動後に牛乳などのたんぱく質を含む飲料を飲むこと。運動後にたんぱく質をとると、血液量が増え、汗をかきやすくなったり、皮膚血流の増加による熱放散をしやすくなったりして、体温が上がりにくい体になるのです。速歩き 30 分の後、牛乳 300ml 飲むと効果的。運動や牛乳の量が、一度では大変、という人は、2 回、3 回と分けて行っても効果があると考えられます。

※牛乳でなくても、たんぱく質を含むものには、効果が期待できると考えられています。

※運動は暑い時間帯を避けて行ってください。

※高血圧の人は医師の指導に従ってください。

※脂肪のとりすぎにはご注意ください。

●身体の温度が上昇しにくくするために

体を冷やすなら、どこを冷やすのが効果的か。

すぐ思いつくのはおでこですが、おでこを冷やしすぎると、冷たさを敏感に感じて、熱を逃がさないようにする反応が起こりやすと考えられます。おすすめは、首。首は、救急救命士など専門家向けのマニュアルで、熱中症になった場合に、冷やすことがすすめられている場所の一つ。太い血管があるため、効率的に体を冷やすと考えられているのです。また、脳も同時に冷やすので効果的とされます。

と言う訳で、首に冷却機能のあるタオルなどを巻くのは効果的なわけです。

※但し、冷やしすぎや長時間の冷却は避けてください。

水分だけを大量に取りすぎると、血中の塩分を始めとするさまざまな成分が薄まります。いわゆる「水あたり」の状態となり、これも体調をおかしくします。スポーツドリンクもいいですが、塩分（粗塩などの天然塩）の摂取、または昔ながらの塩辛い梅干を摂るなどの方法もその予防に有効なようです。十分な睡眠をとって体力を保つ事も予防に有効です。

外国人で涼しい場所で育った人は暑さに弱いといわれます。これは、涼しい気候なので身体の熱を放出する「汗腺」が少ないため、身体の熱を汗で放出する機能が低い事が原因とされます。

同じく赤ちゃんを冷房の効いた場所で育て続けると汗腺の発達が充分ではなくなり、体温調節機能が不十分なまま育ってしまうとされます。程度ものでしょうが赤ちゃんにとって多少の「暑さ」と言うストレスは身体の放熱機能を発達させるようです。

2011年7月23日全体教育訓練講義資料

2008年6月18日配布資料改定

気まぐれ通信 其の59

● あじあ号と中国新幹線

中国の一部、かつて日本の支配下に有った満州国で当時最高峰の性能を誇った蒸気機関車「あじあ号」が走っていた。パシナ型と言う流線型のデザインで当時の蒸気機関車としては画期的なデザインで有った。当時の満州鉄道は日本の手で整備され、昭和9年～18年、大連とハルピンの950Kmを最高速度130km/hで走る性能を持っていました。走行速度が速いので安定性を求められ、レールの幅は通常より約37センチ広い1435mmとなりましたが現在、日本の新幹線もこの幅を採用しています。昔の鉄道技術が活かされたわけですね。あじあ号とその路線は日本の技術により出来たのですが、中国国民にとっては日本による侵略・支配の象徴と捉えられ、よく思われていなかったとされます。逆の立場に立てばその心情は理解できます。

片や中国新幹線。現状は周知の如く、、、海外の技術を学びながら自国技術であると堂々とノタマウ。拳句は、特許を申請。民間企業がやっているあらゆるコピーを国家レベルで推進している。

中国の輸出製品の中には、発火したりスグに壊れたりする物も有り、物にもよりますが中国人ですら自国の製品を信用せず買わない傾向も有るトカ。今回の鉄道事故は「政府主導の自国製品」で自国の国民に犠牲が出てしまった訳です。利用者が好むと好まざるに関わらず「中国製」を利用しなければ成らなかったのです。また、運転手も数日間の「訓練」で配属。日本であれば最低半年の訓練を経なければならず、これとて安全を軽視したものと言えます。今回の犠牲者は1億数千万人の数十人。昔っから中国はさまざまな事故や自然災害の犠牲者に対し「たかが知れた人数」と命を軽視してきました。今回も「今までの通りに処理したのでしょね」。で犠牲者も数十人、、、今までのように押さえ込めるとタカをくくっていたようです。高度成長に伴う経済力を背景に高飛車な姿勢を貫いてきた中国政府は、その姿勢ゆえ、自国民並びに海外からの非難的となったのでしょ。内憂外患がまたひとつ現実に、、、

平成23年8月2日

おまけ

共産資本主義と民主共産主義

中国は共産主義国家で、一党独裁。その「指導」のもと改革開放路線で共産主義国家ながら資本主義経済の手法を推進しました。ご存知の通り情報管理のもと「臭いものにはフタ」「情報隠蔽」「情報操作」「秘密主義」は当たり前。その中で国家の舵取りをしてきました。いわば「共産資本主義」

片やニッポン。「民主主義」「資本主義経済」ながら、お国の体質は「共産主義的」で中国と同じく「情報管理」「情報操作」をしています。と言う訳で「民主主義の皮をかぶった共産主義」、体質的には同じですね。中途半端な民主主義国家の成れの果てですかね、、、

平成23年8月2日

気まぐれ通信 其の60

●東北の夏祭り

過日、テレビで震災被害を受けた東北太平洋側の夏祭りの特集を放送していた。祭りに使う山車や道具が津波で流され祭りが出来ない。また、震災の犠牲者や親族を慮って（おもんばかって）開催そのものをためらう主催者の苦悩が見て取れました。平野郷の夏まつりにおいても、少数ながら自粛の意見も有ったようでした。「復興」を目指し、祭りを開く事を選択した地域では地元のみならず、周辺地域の方々はとても喜んでおられたようです。主催者・参加者の方々も身内の震災犠牲者の弔いと復興祈願を胸に秘め、祭りに臨まれたのです。政府の遅々として進まぬ対応に対し、自らを奮い立たせるシンボルの1つとしての祭礼行事。豊作の時は自然の恵みに感謝し、飢饉では自然の神々に祈りを捧げ自らを前向きに導く。今回の大災害に際しても「前向き」を引き出し、困難に対し自らを鼓舞する」と言う祭りの役割の1つが現れたのかも知れません。

個人的な意見ですが東北地方は冬には雪に閉ざされる地域が多く、その分、雪の無い夏には冬に溜まった精神的なエネルギーが爆発すると言う印象を受けます。彩りも派手で大きな屋台・大きな太鼓、派手な衣装・アクションなどなどが、それらを表しています。東北以外の祭りにも似たように派手な祭りが有りますが東北には一味違った精神的エネルギーの開放を感じるのです。

日本の祭りには自然を崇拜し、畏怖し、敬意を表する。そんなエネルギーを感じますし人々がエネルギーを発散させる事により、より力強いエネルギーを得る。そんな不思議な力を秘めているように思えます。

平成23年8月9日

おまけ アメリカの軍事情報は日本海を越えてゆく

数年前、防衛省からアメリカの戦闘機情報がネット経由で漏出した。戦闘機の情報などは最高機密のひとつ。それが、いとも簡単にパクられた訳である。そして記憶に新しい海上保安庁の船と中国漁船の動画流出。日本の情報管理が如何に甘いかが露呈している。

更には、民主党政権中枢からアメリカの軍事機密が中国寄りの日本の大新聞社に流れ、それが中国にだだ漏れなのが判明。かつて盟友（言いなり）だった日本は情報管理の面でも全く信用されなくなった。結果、韓国が新たなアジア地域の「盟友」となり、もっぱら重要な情報のやりとりは韓国が中心となってしまったのだ。

平成23年8月9日

気まぐれ通信 其の61

●大阪のチンチン電車～南海電車を中心に ～ 8月22日はチンチン電車の日

東京で路面電車（チンチン電車）が初めて開通したのが1903年の8月22日で、これをチンチン電車の記念日としたようです。さて、大阪で今でも活躍しているのは南海のチンチン電車（路面電車）ですね。これは明治31年に開通したとされ、同時期には別ルートで馬車鉄道も走っていたようです。しかし馬車では運搬能力の限界が有り、明治42年に馬車鉄道の会社（大阪馬車鉄道株）と南海鉄道株は合併し、全面的に電気で走る路面電車となったそうです。

ちなみに「チンチン電車」とは、出発の際に「チンチン」と鳴らす事から愛称になったのですね。

南海の路面電車は、天王寺と住吉公園を結ぶ「上町線」日本橋付近の恵比寿町と浜寺公園を結ぶ「阪堺線」また、堺の宿院と大浜海岸間の「大浜線」そして旧平野郷の平野と堺の今池を結ぶ「平野線」がありました。

平野線は昭和55年に地下鉄谷町線の延長敷設と共に廃線となってしまいました。この南海平野駅は私が幼稚園・小中学校の通学路に有り、慣れ親しんだ駅でしたし天王寺にもこれで良く行ったものです。また高校の3年間、この線を通った事も有り、思い出として深く残っています。また大浜線は昭和25年に廃線。自動車の普及に伴って廃線に追い込まれたのですが、大阪の中心部を網羅していた大阪市電、大阪北部の阪神電鉄経営の路面電車も同様の運命を辿ったのです。特に、大阪市電の末期は車の渋滞に巻き込まれて立ち往生する事が多くなり、公共交通としての機能は果たせていなかったのです。

その中で今でも残っている南海阪堺線・上町線は、歴史上も経営面からも、そして風物詩としても特筆すべきものと感じます。今でも、たま～に乗ることが有りますが風情が有っていいものです。もちろん、沿線の方々には重要な足です。

ちなみに6月10日も「路面電車の日」とされ、1995年に路面電車が有る自治体が「路面電車サミット」を開き、「路・電」→「6・10」をもじって定めたのだそうです。

私は昔、8月22日は「出発・チンチン」→「8・22」なので「チンチン電車の日」と思っていました
が大きな勘違いのようでした。 /(^o^);

平成23年8月23日